

●施策名

【施策12】自然に親しみ、自然を尊重するところをはぐくみます

(関連指標：指標53～指標54 (P57))

- i 豊かな自然に親しむ体験活動の推進
- ii 低炭素・循環型社会に対応した環境教育の推進

●代表的な取組の進捗状況

i 豊かな自然に親しむ体験活動の推進

- ・ 福島県・群馬県・新潟県の各県の小・中学生各20名、計60名が参加し、尾瀬ヶ原を中心に体験活動を実施しました。

・ 【再掲】東日本大震災及び原発事故の影響で、子どもたちがのびのびと活動できる環境が少なくなっている中で、心身ともにリラックスして自然体験活動や交流活動等が行える事業を実施し、子どもの健全な育成等を図っています。

平成25年度は、「ふくしまっ子体験活動応援事業」において、自然体験活動や交流活動等に対する補助を行い、合計で約16万人の活動を支援しました。



「尾瀬子どもサミット」
小中学生3県交流事業の様子

ii 低炭素・循環型社会に対応した環境教育の推進

- ・ 各教育事務所や各市町村教育委員会へ依頼を行うなど、福島議定書事業への参加校を増やす取組を行っています。
- ・ 小中高それぞれ3校のモデル校において、再生可能エネルギーに関する講演会やエネルギー施設等の見学などの学習プログラムを実践しています。

●問題点・改善等が必要な項目

① 豊かな自然に親しむ体験活動の推進

- ・ 老朽化している自然の家の施設整備。

② 低炭素・循環型社会に対応した環境教育の推進

- ・ 地球温暖化の問題への理解の深化。
- ・ 児童生徒の主体的な取組の促進。

●取組の方向性

① 豊かな自然に親しむ体験活動の推進

児童生徒が豊かな自然に親しむ体験活動を行える場として、自然の家の施設の整備を図るとともに、引き続き適切な管理運営に努めます。

② 低炭素・循環型社会に対応した環境教育の推進

児童生徒が、地球温暖化問題への理解を深めるとともに、本県の自然環境を理解し、環境の保護に向けて主体的に考え、行動できるよう、発達の段階に応じた環境教育を推進します。

● 主な指標の状況

・ 指標 1

福島議定書の参加
学校数の割合（公
立幼・小・中・高・
特別支援学校）

現況値
44.6%

年度別目標値
上昇を目指す

評価
順調では
ない

① 評価の理由

現況値が震災前の水準を
下回っているため。

② 今後の取組

復旧・復興に向けて、
各学校が取り組む教育活
動と福島議定書事業の関
連を再確認させ、事業を
早期に周知するなどして
参加率を上昇させてい
く。

